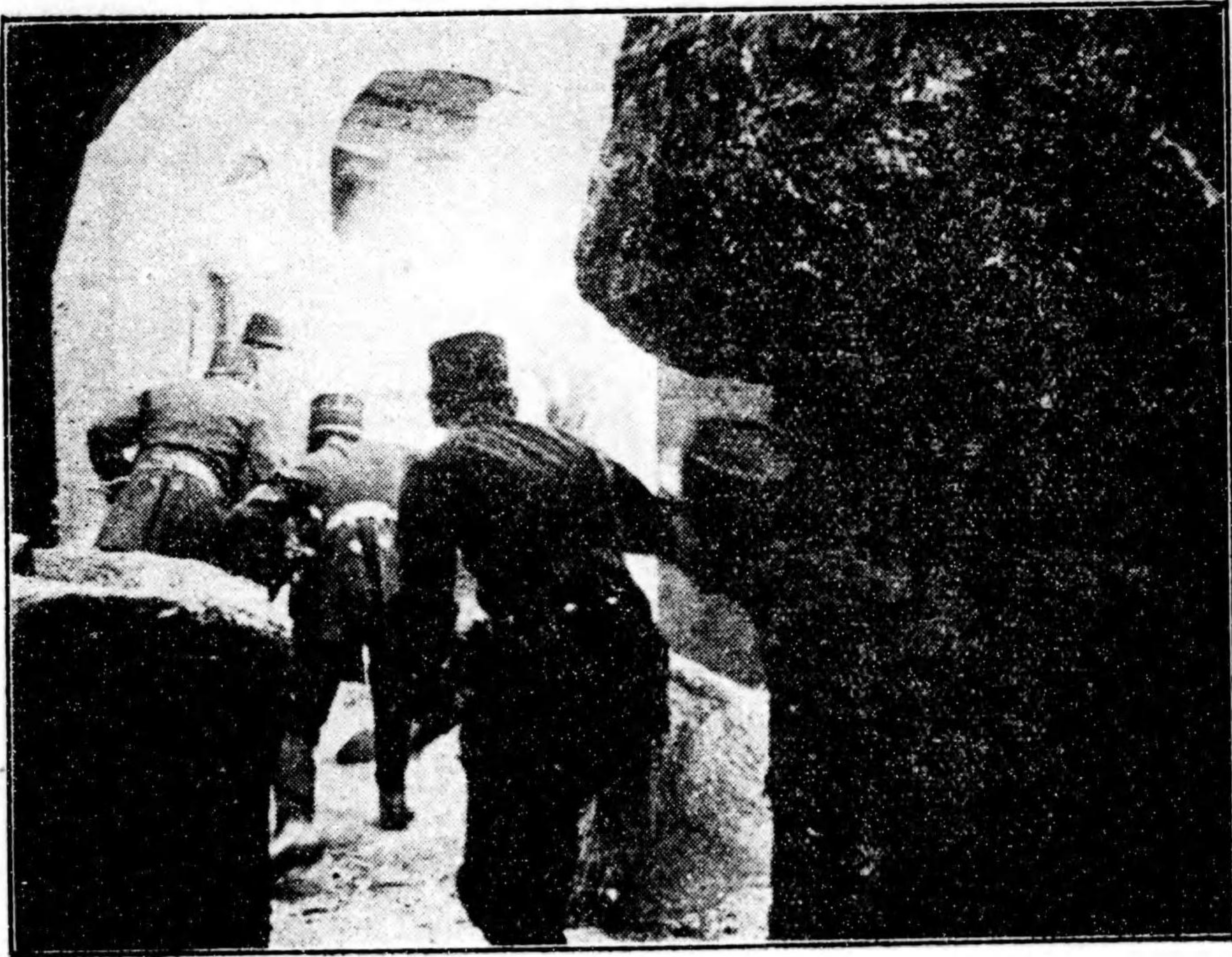


を棄て、ジゴマを直ぶるに追うた。

如何に勝手を知つた身でも、慙く肉迫せられては、何うする事も出来ぬ。

彼は迷路のやうな地下室の廊下を、鼠のやうに遁げ奔つたが、彼と警察官との距離は纔に一步に過ぎぬ。ポーションの手は將に彼の肩先に觸れんとした。間一髪彼は傍の壁に身を投げ掛けた。壁は龜燈返しに彼を吸込んだ。續いてポーションも其壁を抜ける。一同も抜ける。

壁の外は岩窟であつた。即ち聖マグラル寺の後方に續いた古い墓地の一角である。



ジゴマは墓地に奔り入つた。

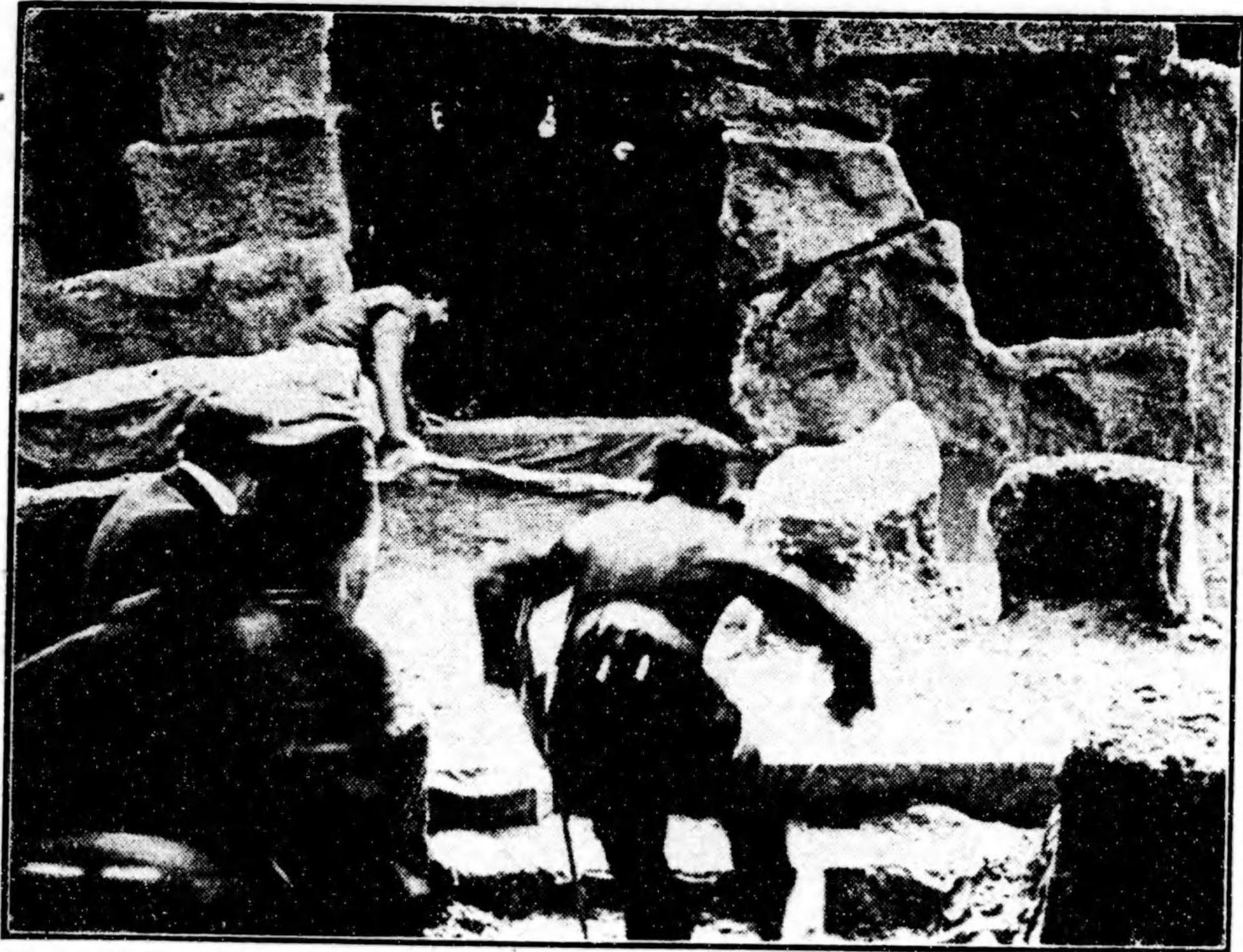
累々たる巨石の横はる荒廢の墓地、其處には悪魔が怖しい仕掛けがしてあるか知れぬ。然れど躊躇すべき場合では無い。ポーリン以下一同は續いて奔つた。

巖窟の裡は墨を湛へたやうに眞暗である。其の闇中に姿を没したジゴマの跡から、懐中電燈を振り翳しながら彼の足音を追うて一同は進んだ。

稍小半町も來たと思ふ頃、ジゴマはツイと右に外れた。

それと同時に！

天地も崩るゝばかりの大爆烈は起つた。



## ▲ジゴマの終焉！

轟然！ 又爆然！

大岩巖は凄じき響と共に爆烈したのである。

呀やと地に平伏した警察官の大半は、

あはれ五体を粉碎されて居た。

「大探偵、慥乎なさい。傷は浅いです。

慥乎なさい。」

此の聲が幽に耳に入つて、漸く氣の着いた時には、ポーリンは日頃から弟のやうに愛して居た部下のニック、カーターに懷れて居るのである。

「ジゴマは、ジゴマは……。」



と、身の負傷を忘れてポーリンは喘ぎ  
く聞いた。

「兇賊は滅びました。シゴマは自から五  
體を碎いて死んだのです。さ、大探偵、

慥乎なさい。」

「ウム、シゴマは我々の手を藉らずに自  
滅したのか。さ、残念だなア。」

と、漸く身を扶け起されたポーリンは  
跟く脚を踏みしめて、昵と四下を見廻し  
た。

(前編終り)



活

動

豫告

ジゴマ續篇 (近刊)

巖窟を爆破したジゴマは果して  
 自から其の五體を粉碎したので  
 あらうか。否、否、神變不思議  
 の術を有する彼は、驚くべし、  
 再び巴里の天地を横行したので  
 ある。ポーリンに對する大復讐  
 ニックカーターの奮起、怪美人  
 オルガ、ミットの活躍、凄絶壯  
 絶の快文字は前篇よりも寧ろ續  
 篇に有り

文

庫

大正元元 大正元元  
 二十年十月二十日 二十年十月二十日  
 發行 印刷

東京市神田區錦町三丁目九番地  
 編輯者兼 發行者 鈴木種次郎

大阪市東區北渡邊町八十九番地  
 發行者 杉本 要

東京市京橋區新富町五丁目九番地  
 印刷者 鷺見知枝麿

東京市日本橋區下槇町十二番地  
 發行者 梁江堂書店

電話本局三二二〇番  
 振替東京六四三五番

電話本局二七四五番  
 振替東京二八二三番

大阪市東區北渡邊町八十九番屋敷  
 梁江堂書店

電話本局二七四五番  
 振替東京二八二三番

所 行

活動文庫目錄

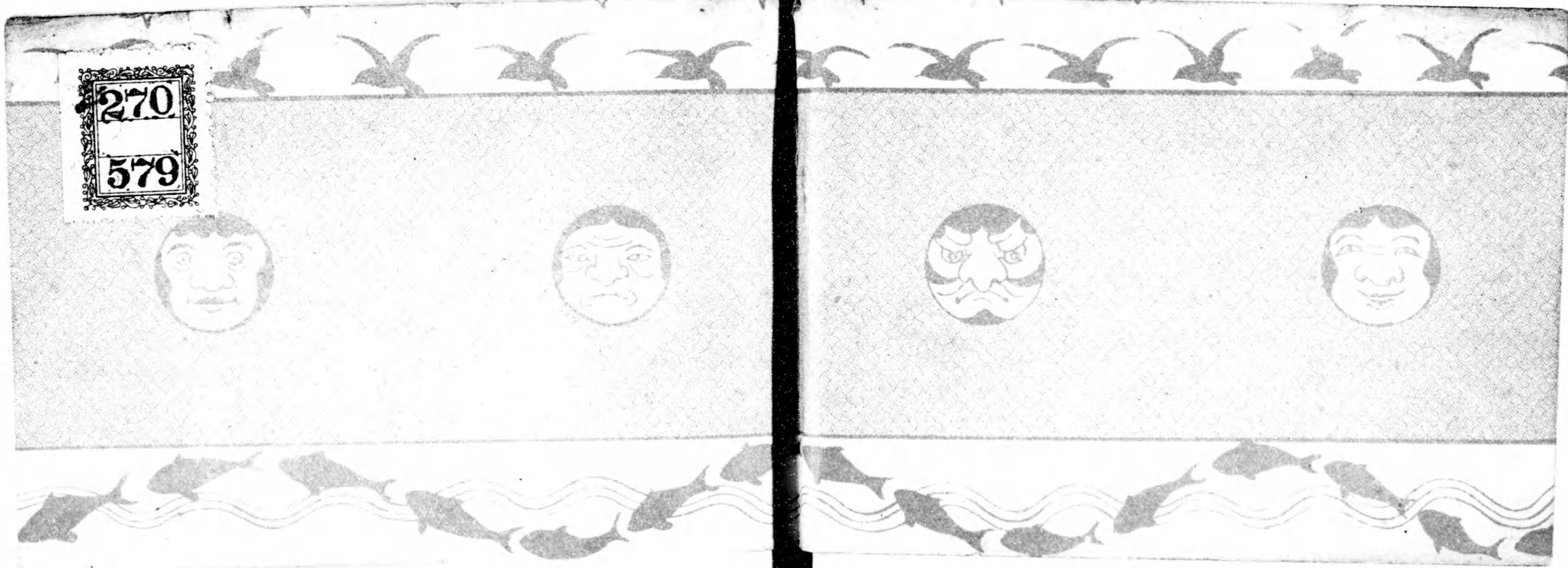
- (1) 正劇 シゴマ全集
- (2) お伽劇 ボビー集
- (3) 史劇 南北興國の歌全集
- (4) 悲劇 親の罪全集
- (5) 喜劇 マックス君全集

(以下續刊)

各地大賣捌所

東京	名古屋	星野書店
六合館	京都	東枝書房
北隆館	全郡	寶文館
東海堂	大阪	盛文館
文榮閣	神戸	日進堂
至誠堂	廣島博多	積善館
文林堂	久留米	金文堂
明文館	札幌	富貴堂
修文館	京城	日韓書房
勉強堂	大連	大坂屋號

270  
579



終

